

平成 24 年 3 月 3 日(土)午後の市民公開講座のお知らせ 帯木蓬生先生：医療と倫理の間 於東京大学安田講堂

第 25 回日本自己血輸血学会学術総会会長 高橋孝喜
日本自己血輸血学会理事長 脇本信博

来る 3 月 2 日(金)、3 日(土)、東京大学本郷キャンパス構内において第 25 回日本自己血輸血学会学術総会が開催されます。

自己血輸血は、通常の輸血療法(同種血輸血)に伴う肝炎などのウイルス感染症の伝播や免疫学的な副作用などのリスクを回避し得る理想的な輸血療法であると期待されております。従来 of 学術総会においては、自己血輸血の普及推進、適応拡大、研究開発を主眼にしてまいりましたが、今回は日本自己血輸血学会の原点に戻り、「適切な自己血輸血実施体制の確立を求めて」をメインテーマに致しました。

学術総会の特別企画として、3 月 3 日(土)午後 3 時より東京大学安田記念講堂において、帯木蓬生(ははきぎ・ほうせい)先生による「医療と倫理」と題する市民公開講座(入場無料・予約不要、午後 2 時 45 分開場予定)を開講致します。

帯木蓬生先生は、東京大学仏文科を卒業後に九州大学医学部を卒業され、以来、第一線の精神科医としての診療に従事されるとともに、人間性の本質に迫る珠玉の長編小説を次々と発表されております。『賞の枢』(1990、第 3 回日本推理サスペンス大賞佳作)、『閉鎖病棟』(1992、第 8 回山本周五郎賞)、『三たびの海峡』(1992、吉川英治文学新人賞)、『逃亡』(1997、第 10 回柴田錬三郎賞)、『水神』(2010、第 29 回新田次郎文学賞)、『ソルハ』(2011、第 60 回小学館児童出版文化賞)など多くの受賞歴があります。

特に、医学・医療に関連する倫理的・法的・社会的問題を根底のテーマとする多くの作品を執筆されております。今回の市民公開講座においては、『白い夏の墓標』(1979)、『アフリカの蹄』(1992)、『安楽病棟』(1999)、『エンブリオ』(2002)などの作品のご紹介とともに、医療と倫理の間に横たわる問題についてご講演される予定です。

自己血輸血に関心のある多くの医療関係者が学術総会にご出席下さることを期待しております。そして、帯木蓬生先生のご講演を拝聴する貴重な機会ですので、幅広い市民の皆様が併せて市民公開講座に多数ご来場下さいますよう心からお願い申し上げます。

連絡先 東京大学医学部附属病院輸血部 高橋孝喜(03-5800-8794)